

## ◆ 視覚障がい

視覚障がいは、視力や視野の障がいで、生活に支障をきたしている状態のことを指し、生まれつきの先天性の場合と病気や事故による中途障がいの場合があります。また、視覚障がいといっても、個々人で見え方や程度が大きく異なります。右の表で示したのは、代表的な例です。

視覚障がい者の中には、歩行訓練士の指導のもと、<sup>はくじょう</sup>白杖と呼ばれる杖を使って歩行する人もいます。また、盲導犬を連れしたり、人が声かけなどのサポートをする同行援護を受けたりする人もいます。

## &lt;代表的な視覚障がい&gt;

|    |                                                                  |                 |
|----|------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 盲  | ほぼ視力がない状態。明暗の区別がつく、目の前の指の数であれば分かるなど段階がある。特に、まったく視力がないことを「全盲」という。 |                 |
| 弱視 | 視力障がい                                                            | 視力が弱いこと。        |
|    | 視野障がい                                                            | 視野（見える範囲）が狭いこと。 |
|    | 色覚障がい                                                            | 特定の色が見にくいこと。    |
|    | 光覚障がい                                                            | 光の感覚が機能不全となること。 |

## ◆ 点字

点字は、1825年、フランスのルイ・ブライユが16歳のときに発明したものです。彼は、3歳のときにけがで片目の視力を失い、5歳の時にもう片方の視力も失いましたが、目が見えなくとも自由に読み書きできるような文字を作ろうとしたのです。

1887年に日本にローマ字式の点字が伝わり、1890年に日本語の点字が制定されました。点字の単位は「マス」といい、1マスは縦3点、横2点の計6点から成ります（図1参照）。原則、そのうちの①、②、④の点で母音を、残りの③、⑤、⑥の点で子音を表します。母音の表し方は図2の通りです。カ行を表したいときは、この母音を表す点字に加えて、さらに⑥の点を足します。濁音、半濁音にしたり、数字やアルファベットを表したりする時は、文字を表すマスの前に濁音や数字などを導入する符号の役割をするマスを置いて表します。例えば、濁音にするときは、文字のマスの前に⑤の点のみがあるマスを足して表すのです。

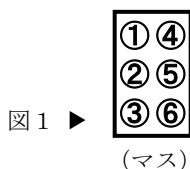


図2 ▶

|     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| ● - | ● - | ● ● | ● ● | - ● |
| - - | ● - | - - | ● - | ● - |
| - - | - - | - - | - - | - - |
| ①   | ①②  | ①④  | ①②④ | ②④  |
| ア   | イ   | ウ   | エ   | オ   |

## ◆ 盲学校、視覚支援学校

盲学校とは、視覚に障がいがある児童・生徒が就学する学校のことです。視覚支援学校や、視覚特別支援学校と呼ばれることもあります。その教育においては点字などが利用されます。

「自立活動」の時間には点字の指導や、白杖による歩行訓練、\*拡大読書器のような補助具の活用の指導、卒業後の自立に向けての生活訓練などが行われます。また、盲学校に特徴的な専門教科として「理療科」があり、はり師、マッサージ師の資格を得るための専門教育が行われています。

\*拡大読書器…文字を拡大、あるいはコントラストを調整することで、文字や画像を見やすく画面に表示する機器。



▲ 拡大読書器